



ふるさとの同じ祖を持つ家族かな

園児の頃、20余軒の安庭商店街に2軒の鍛冶屋があった。火と槌の古老を何度か覗いたが、それが名工刀匠・奥州御所住吉光であり、奥州御所は鎮守府將軍平親王の御所館が由来等、後に知ること数多い。

天皇家分裂の南北朝期、南朝公家將軍・北畠顯信あきのぶは居城の雫石・沢内の両盆地を親王一族の戸沢に託し八戸南部・伊達・白河結城の奥州軍を率い鎌倉を占領。京の北朝足利軍も破り、伊勢国司を弟顕能あきよしに託し大群相手に吉野へ消える。兄顕家や南部藩主師行もろゆきら百八名が堺浜で散り、都人が騎馬の花將軍と祀る一族だ。敗戦で三種の神器は南朝天皇家から幕府・北朝に渡り、南朝公家らの奥羽落人おちゅうどがあり今に至る。

昨春、妻の先祖情報を他県学芸員から頂き驚いた。「奈良、大阪の前は伊勢北畠随行の奥州棚倉藩玉野…」その時、郷土史サイト滴石史談会閉鎖を知る。

故郷は戦乱や大火ほだいじで菩提寺や史料を焼失。將軍屋敷町跡も湖に消えて久しい。南部藩家老末裔の官僚と国務の際、秀吉仕置や一城令で雫石、川口等の廃城と雫石移住を知る一方、二大都・平泉、筏道・御所路、盆地口/繫・元御所に平家史碑、領地中央の町場・戸沢・大宿の羽州道/沢内路、安庭の筏奉行・型染屋敷まがきの・籬野屯所・古墳の無知も知る。遠戚の高望親王流たかもちの平氏研究家・細川久美氏（元御所賑い屋敷筋）は臥し、公設歴史サイト再興と活用・発信が急がれる。

古来より山紫水明な出湯いでゆの雫石は岩手山南麓あんの安

寧ねいな四季の箱庭だが、公家大名ら落人の廢都でもある。古の領主はアシタカ伝説の祖・騎馬王アテルイいにしえや天空の鬼ヶ城・大武丸に始まり、安倍一族、平/桓武平氏、藤原/平泉、工藤・北条/鎌倉源氏、戸沢/大和平氏・北畠/後醍醐天皇、斯波しば（三管領）/河内源氏、南部/甲斐源氏へと変遷。古の郷民は畿内へ拉致ふしゅう・俘囚の一方、戦乱毎に畿内・平泉、鎌倉・畿内、甲斐・加賀等からの転封一族や改易帰農民らも流入。明治の復姓表家紋で古の落人・大名姓残る奥羽の里となる。

一方、郷土ゆかりの末裔は全国にいる。征夷大將軍坂上田村麻呂が黄金略奪・エミシ侵略の惨劇に京の自宅を寄進し清水寺を建立。郷民末裔の苦難をアテルイ法要や公家無き京に知る。他に肥後・伊予等の国主、英国密航志士の鉄道之父、四国・九州流刑を経て昭和～令和の首相等輩出一族、理想郷童話作家等、太平記や勝者歴史書以外の秘話や弁慶にも縁を感じる。

さて、人は誰もが父母二人、祖父母四人と遡る毎に2の乗数倍で先祖が増える。仮に南部藩以降437年が20世代なら母数百万。盆地内結婚・人口平均一万なら町民の先祖は平均百箇所重複の同族に近い。

さらに東京圏の雫石縁者は町民人口を超えた可能性もある。上京者が駅開設から数世代想定できるからだ。今や隠れ縁者も準町民と言えまいか。そこで全国の縁者にも伝えたい。望郷ほんぼこ狸の様に集い、同郷・同族・末裔と無事の再会を祝いたい。「マンツ来テクナンセ。ジャッジャッジャー！」だ。



2015年御所中の還暦同窓会で

1955年生まれ。旧姓細川。安庭小、御所中、国鉄東北鉄道学園（車両工作/工高連携）、盛岡工場（電機/技能五輪）、中央鉄道学園（大学課程）卒。博多勤務を経て（公財）鉄道総研に永年奉職。資格：技術士（機械）等。現在、JRIPEX技術士事務所（総代表/コンサル）。他、立川市WS委員/協議会委員（総合政策部/街づくり部）、トトロ財団/在京盛岡広域産業人会等会員。立川市在住。